

【生薬名】前胡 *PEUCEDANI RADIX*

【起源植物】ノダケ *Peucedanum praeruptorum*



【科名】セリ科 *Umbelliferae*

【別名】紫花前胡と中国では呼ばれる

【薬用部分】根

【主成分】クマリン誘導体、タンニン

【薬性】気味は苦辛微寒、帰経は肺に属す

【効能】●下気化痰・疏散風熱

●風邪の初期の発熱や咳、痰に1日10~15gを煎服

●風邪、気管支炎、咽の腫れ、小児の夜泣き、妊婦のむかつき、吐き気に

●葉を風呂に入れて浴湯料としてもよい

●去痰の力は桔梗と同程度だが鎮咳作用は弱い

●慢性気管支炎などで見られる肺熱の症状がある時に使う

【出典】●痰満、胸脇中痞、心腹結氣、風頭痛を主治し、痰を去り、気を下し、傷寒の寒熱を治し、新陳代謝を盛んにし、目を明にし、精を益す。(名医別録中品)

●

●

【備考】●前胡は肺脾の二経に入り、肺を清め気を下し、風熱を散じ、痰を化すので、肺熱により痰・嗽が固まった時に必ず用い、又

●

●

【処方例】●参蘇飲、蘇子降気湯、荆防敗毒散